

## 広報委員会 十年間のあゆみ

広報委員長 高村 信義



広報委員会では会員の皆さまのご協力・ご指導のもとこの10年で様々な取り組みをしてまいりました。

関西潜水連盟の広報活動においてこの10年間でもっとも大きく変化したのはKD Japanホームページ(HP)の開設でしょう。インターネット上のHPを利用することによって関西潜水連盟の本部と各支部あるいは会員の皆様との連絡が迅速かつ正確に行えるようになりました。

インターネット導入以前の関西潜水連盟本部から会員の皆様への広報活動は、郵便・電話またはFAXを使って行っていました。また支部長を経由して各支部独自の連絡網を使っのコミュニケーションも重要な伝達手段でした。年に一度各地で開催されるKD総会は、現在も会員の皆様と直接意見交換のできる大切な場です。

なお一時期「関西潜水連盟会報」が発行された時期もありました。兵庫支部所属(日赤アクアラング奉仕団)鈴木勇氏が編集・発行責任者となられ、1980年から1983年にかけて計11回発行されました。

### 「関西潜水連盟会報」発行日

1980年	3月20日(創刊号)、6月1日、10月1日
1981年	1月1日、4月1日、7月1日、10月1日
1982年	4月1日、8月1日
1983年	1月1日、9月1日

配布先は、当時の支部(大阪、兵庫、京都、奈良)会員900名ほどと必要時、関係団体および監督官庁でした。しかし当時は記事の収集作業が難しく、編集・発行に多大の時間と手間がかかったため継続して発行するには至りませんでした。

1990年代後半になり、電話回線やISDN回線を利用したインターネット接続が国内で一般に普及し始めると、関西潜水連盟でも独自のHPを開設する機運が高まりました。そこで2002年2月に兵庫支部の久岡卓也氏が中心となり「kdjapan.com」を開設することができました。

開設当初の時代は、個人向けインターネット接続サービスの大半は低速なダイヤルアップ接続で、距離従量制の課金でした。そのため多くの情報量を必要とする写真や動画を多く使ったHPを構成するには至りませんでした。

2001年にKD振興委員会が「指導員およびクラブ代表者に対するアンケート」を行いました。その集計結果から、会員の関西潜水連盟HPに対する認知度が低いことがわかりました(回答者71名中43名が未閲覧)。同時にHPについて、よりいっそうの内容の充実と利用希望の声が多く寄せられていることもわかりました。

その後、インターネット接続サービスが低価格・定額のブロードバンド接続で広く提供されるようになりました。これを機会に2005年にサーバー変更を行い、同時に舞鶴支部の大西丈朗氏と甲斐未来男氏が中心となられて「kdjapan.net」にてHPのリニューアルを実施しました。リニューアル後のHPは写真や画像を多く使い、見やすく使い勝手の良い紙面に仕上がりました。またビデオ動画も配信可能になりました。

内容的には基本的なコンテンツとしてKD Japanの紹介を初め、毎年の事業計画・指導講習内容・加盟クラブの紹介等を掲載しています。その他にも各支部別にページを作成し、支部単位でご使用いただけるページや、会員の皆さまによる投稿頂いた水中写真の掲載、並びに、KD主要行事である定時総会・ITC・水中スポーツ大会、UWO大会の開催案内や結果の報告、海の大掃除等の各行事の記事も掲載してあります。

HP更新のほか、これまでにない広報活動として2006年に日刊紙上で水中写真の掲載をすることができました。これは村上前会長と才木前理事長のお力添えを頂き、日刊ゲンダイ様のご好意により、水中写真委員会との協業でKD水中写真コンテスト受賞作品を9週に渡り連載されたものです。

以上この十年間の広報のあゆみを述べてきましたが、今後もよりいっそうのKD Japan発展に向け、迅速で明確な情報発信と多方面に渡る広報活動を目指し取組んで参りたいと思います。